

GPS-Academic全受検者集計データ 5 か年比較「大学1年生のトレンド変化」

株式会社ベネッセi-キャリア
まなぶとはたらくをつなぐ研究所

株式会社 ベネッセ i-キャリア

■ 過去7か年間の入試環境の変化

年度	2024年度の学年	入試年度時点のトピックス
2018年度		定員管理厳格化により、難関私立大で合格者大幅絞り込み→全面的に難化
2019年度		定員管理厳格化により、難関私立大で志願者減→中堅私立大で難化
2020年度		- コロナ禍によるキャンパスロックダウン - 大学入試センター試験 最終年度 - 定員管理厳格化の反動で合格者数が増加に反転→易化
2021年度	4年生	- 大学入学共通テスト 初年度 - 一般選抜における繰り上げ合格者数の増加 - コロナ禍による私立大併願校数の減少
2022年度	3年生	- 大学入学共通テスト 平均点大幅ダウン - コロナ禍による私立大出願校数減少の継続 + 合格者数の増加→易化
2023年度	2年生	- コロナ影響 緩和 - 高校生活3年間すべてコロナ禍だった学年 - 私立大の定員割れが5割を初めて超える
2024年度	1年生	- 旧教育課程 最終年度 「年内入試」へのシフト加速 - 難関私大への積極出願と、中堅私大での共通テスト利用離れ→二極化

GPS-Academic 新入生版

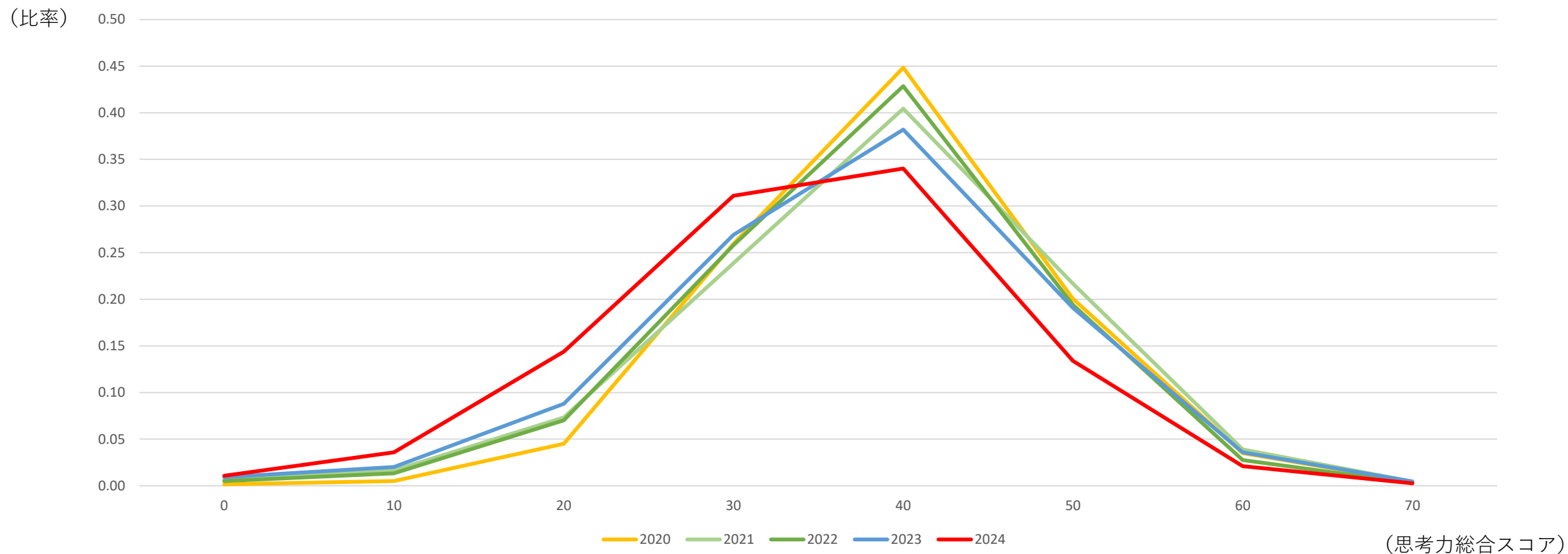
		受検期間	集計人数
大学4年生 大学3年生 大学2年生 大学1年生	2020年度新入生	2020年度の受検可能期間に受検したすべての1年生 (2020年2月～2021年2月)	85,963名
	2021年度新入生	2021年度の受検可能期間に受検したすべての1年生 (2021年2月～2022年2月)	103,547名
	2022年度新入生	2022年度の受検可能期間に受検したすべての1年生 (2022年2月～2023年2月)	112,550名
	2023年度新入生	2023年度の受検可能期間に受検したすべての1年生 (2023年2月～2024年2月)	131,607名
	2024年度新入生	2024年2月～2024年4月までに受検した1年生	121,934名

仮説



- 入試環境等の変化の影響で、新入生の思考力や姿勢・態度などが長期的に変化しているのではないかと
- 年内入試の拡大等による学修姿勢等の変化
 - コロナ禍等による、大学選択のための情報源や、大学でやりたいことの変化
 - 高校までの授業経験や学び方等の変化 …等

大学1年生のトレンド変化



思考力のスコアがダウンし、二極化が拡大

- 思考力総合S層の学生群は安定
- 思考力総合C・D層を中心に、得点率を伸ばせなかった出題の存在
- 思考力総合の全受検者平均では対前年で-3.1pt

【問題例 1】

音楽教室の会議の場において、「教室のホームページで行ったアンケート結果をもとにすると、オンラインレッスンを新規開講すべきである」という提案を聞く。

【問】

提案が妥当かを判断するためにどのような質問をすればよいか。

【正答】

アンケート対象者の偏りに関するもの。

【問題例 2】

カレンダーに書かれている日付の列を題材に、先の日付を予測するために、他者が考案した数式について、どのように考えているのかを考察する。



【問】

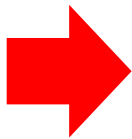
この数式を表す日付の囲み方はどれか。

【正答】

nの日付を中心に上下左右対称に囲んでいるもの。

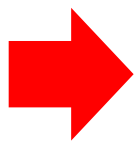
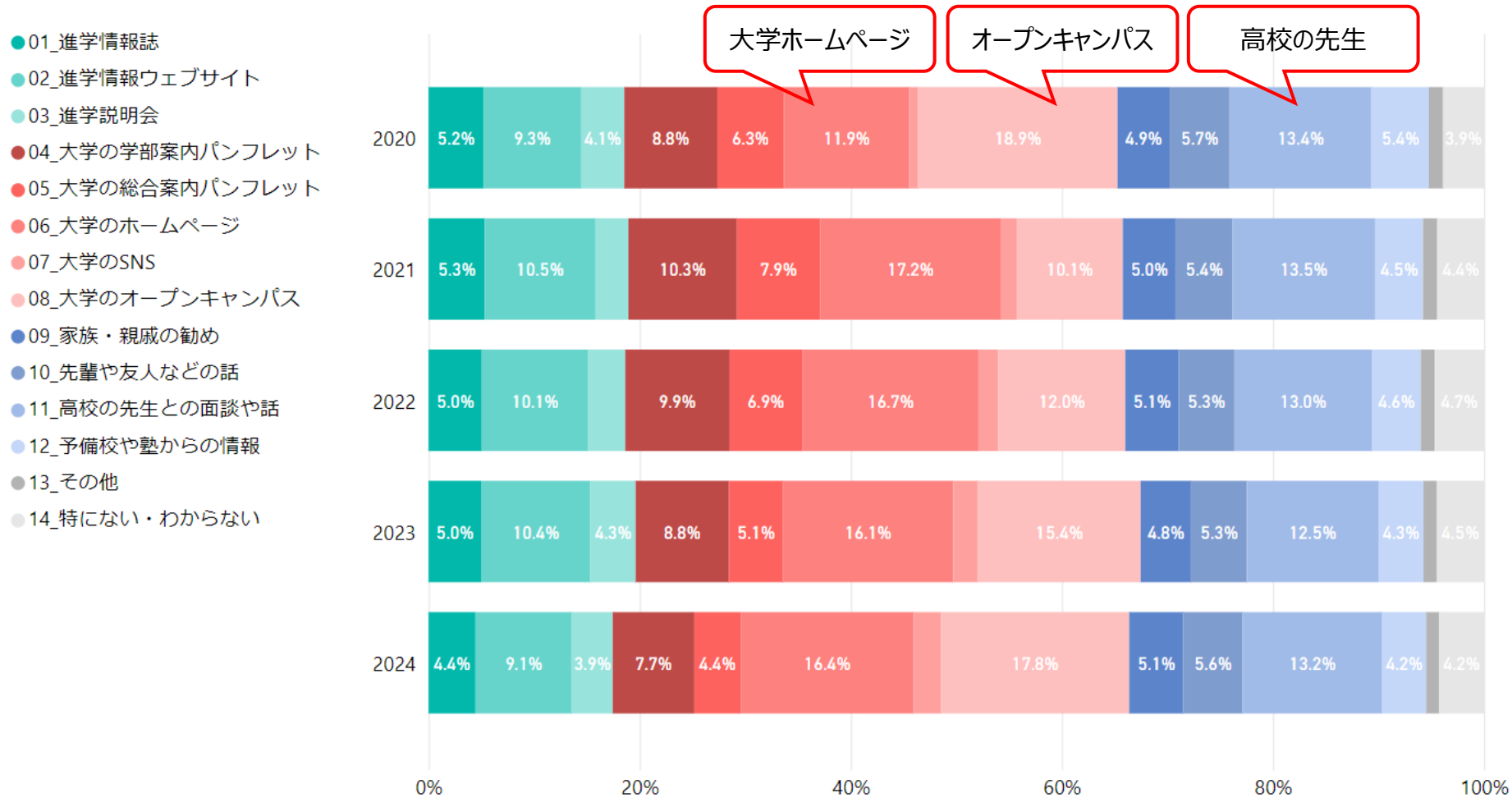
得点率 (S)	得点率 (A)	得点率 (B)	得点率 (C)	得点率 (D)
95.6%	92.3%	87.5%	79.5%	52.2%

得点率 (S)	得点率 (A)	得点率 (B)	得点率 (C)	得点率 (D)
82.4%	66.7%	54.7%	41.3%	19.6%



成績下位層を中心に、数理的な思考力に苦戦

- 数値データをもとにした出題や、数式を用いて考察する問題で、想定以上に得点率が伸びなかった
- 【問題例 1】調査研究を行う上で、データの妥当性を問う思考力
- 【問題例 2】他者の思考・論理構成を読み取る協働的思考力

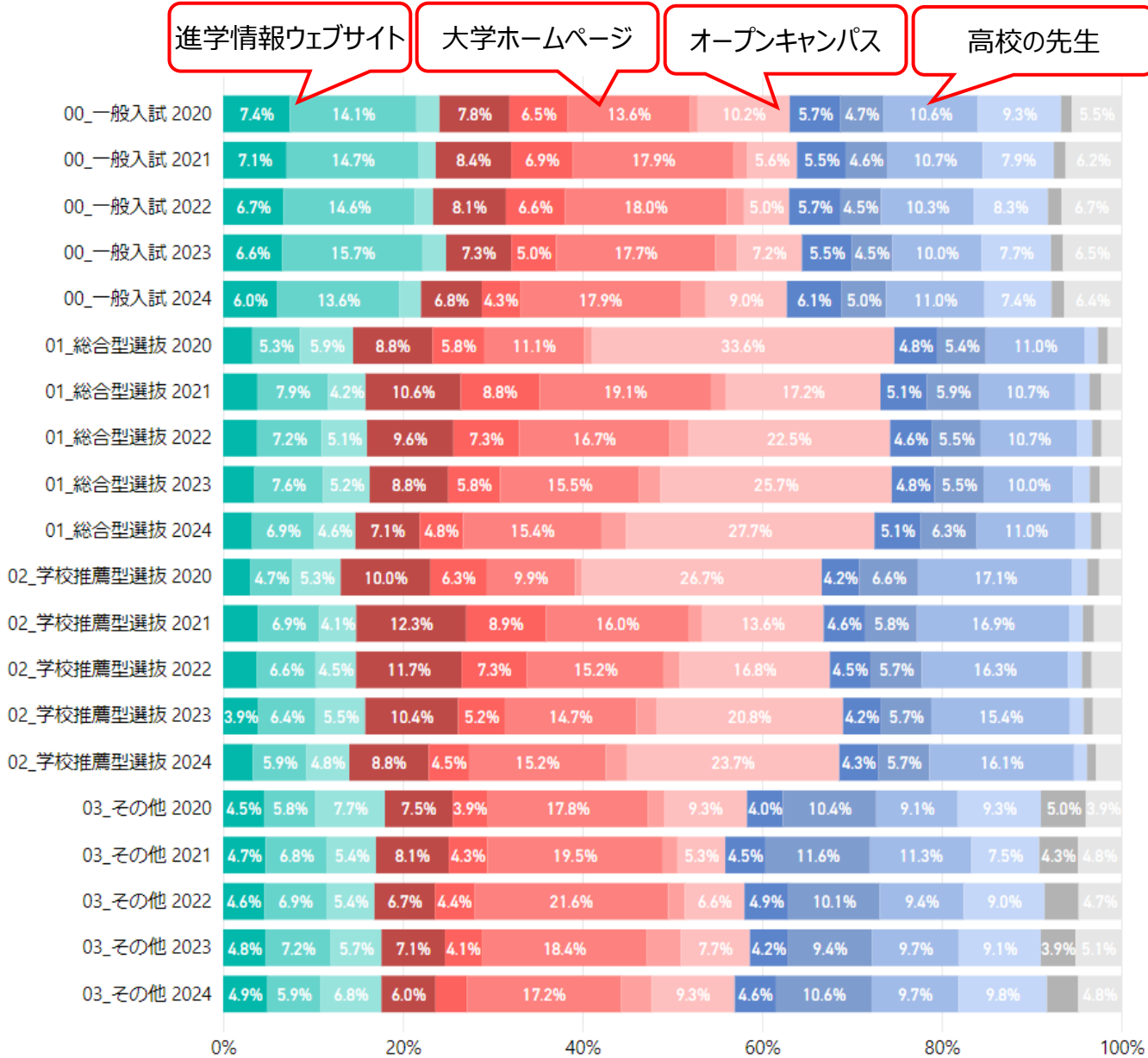


大学選択の情報源として「オープンキャンパス」を活用する新入生が増加

- ・ コロナ禍で半減した「オープンキャンパス」が、ほぼコロナ禍前までの水準にまで増加
- ・ コロナ禍を契機に重視された「大学のホームページ」は、現在でも活用されている
- ・ 「高校の先生との面談や話」は、一定の割合で活用され続けている

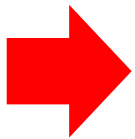
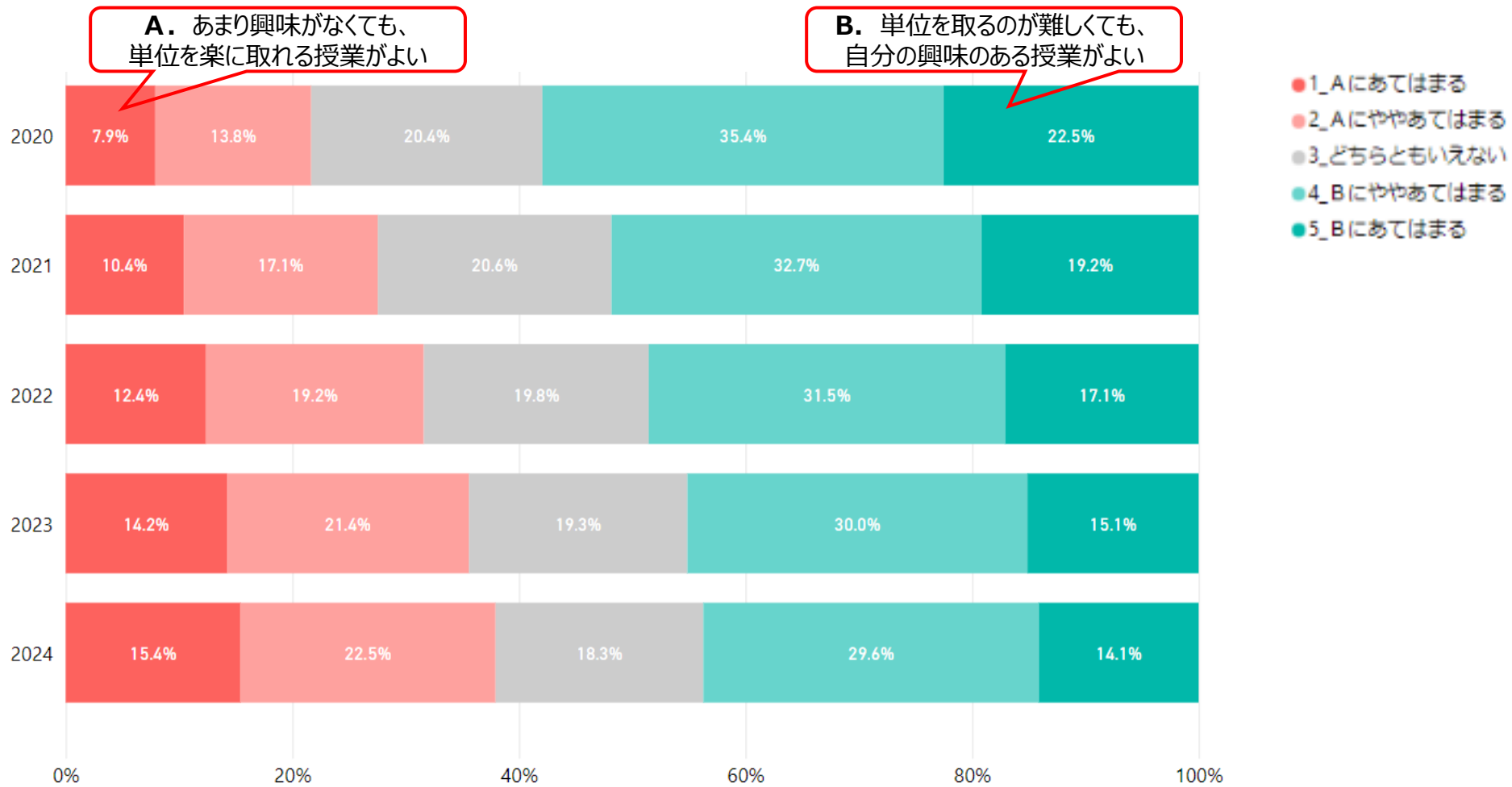
大学選択の情報源（1位）の変化（入試方式別）

- 01_進学情報誌
- 02_進学情報ウェブサイト
- 03_進学説明会
- 04_大学の学部案内パンフレット
- 05_大学の総合案内パンフレット
- 06_大学のホームページ
- 07_大学のSNS
- 08_大学のオープンキャンパス
- 09_家族・親戚の勧め
- 10_先輩や友人などの話
- 11_高校の先生との面談や話
- 12_予備校や塾からの情報
- 13_その他
- 14_特になし・わからない



活用した情報源と傾向は入試方式ごとに異なる

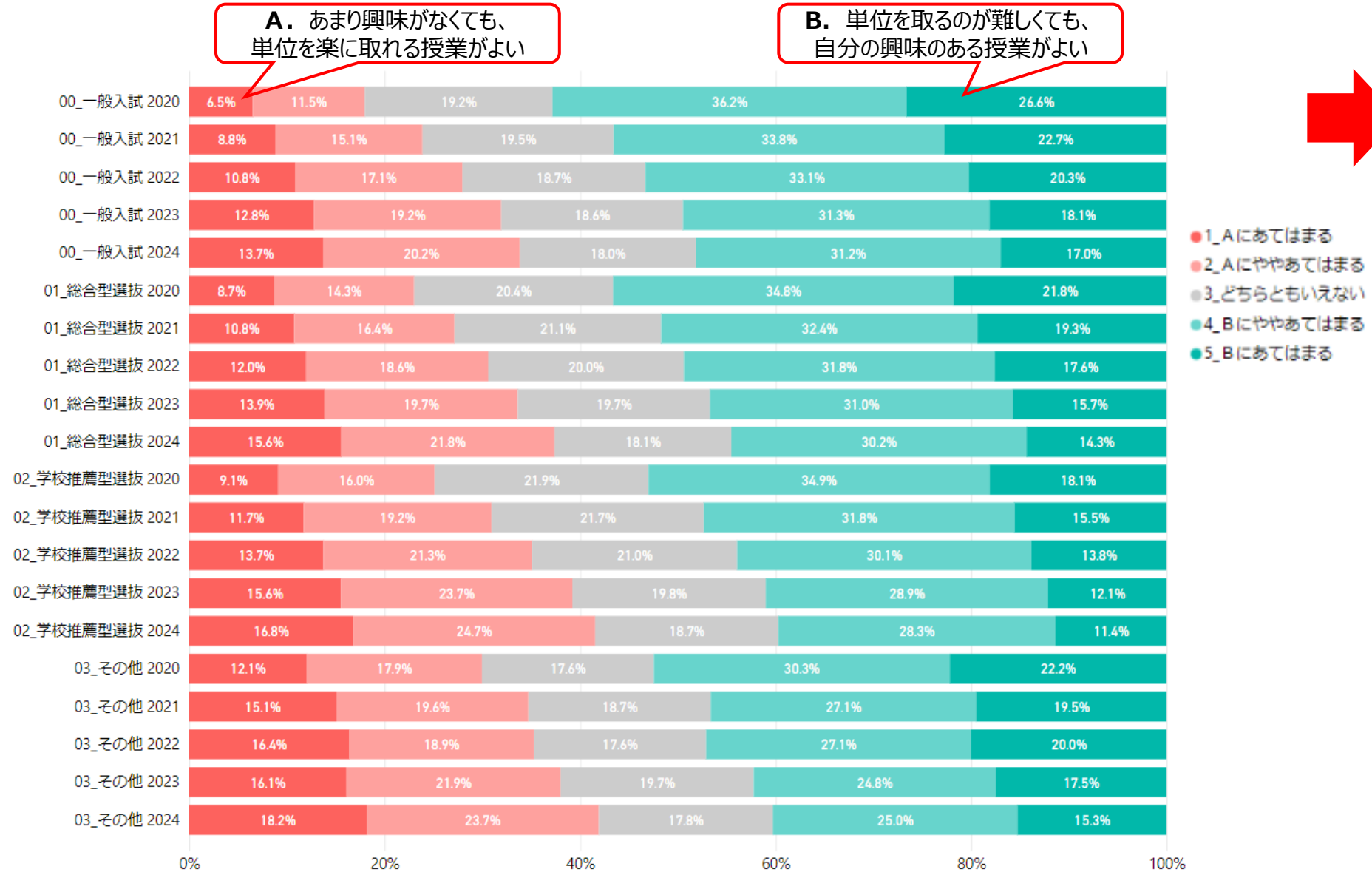
- 【一般入試】もっとも活用したのは「大学のホームページ」、次いで「進学情報ウェブサイト」であり、情報源の比率に大きな変化はなし
- 【総合型選抜】もっとも活用したのは「オープンキャンパス」であり、その比率が3割弱と他の情報源よりも大幅に高く、拡大傾向
- 【学校推薦型選抜】もっとも活用したのは「オープンキャンパス」でその比率も拡大傾向。その分「学部案内パンフレット」が減少。「高校の先生」は一貫して高い比率



「楽単志向」の学生が増加傾向

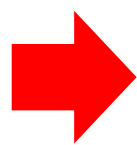
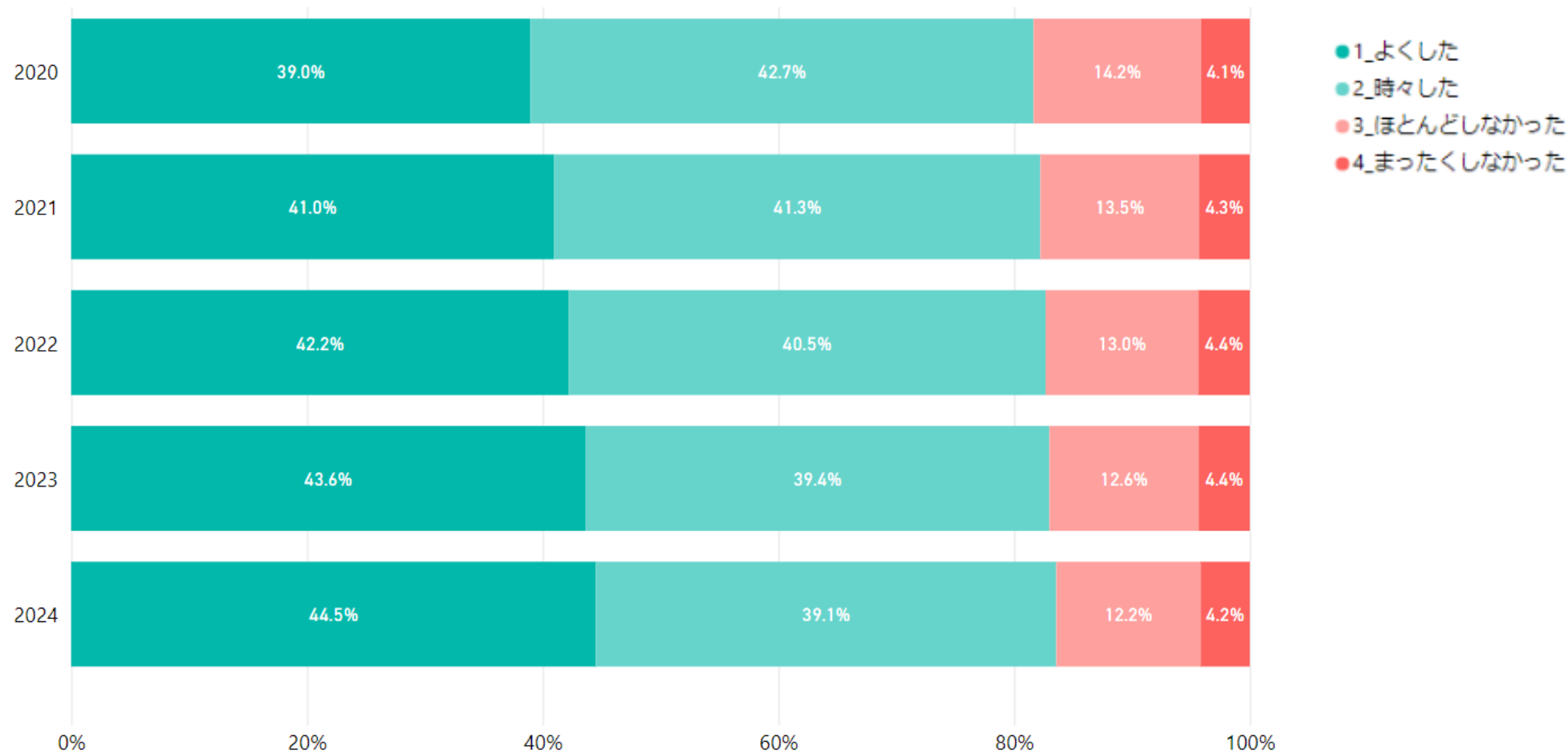
- ・ コロナ禍で緩和した「楽単志向」が、その後一貫して増加傾向
- ・ 「興味のある授業がよい」とする学生の比率のほうが4割強と多いが、「楽単志向」の学生の比率も4割弱にまで拡大

履修選択の考え方の変化（入試方式別）



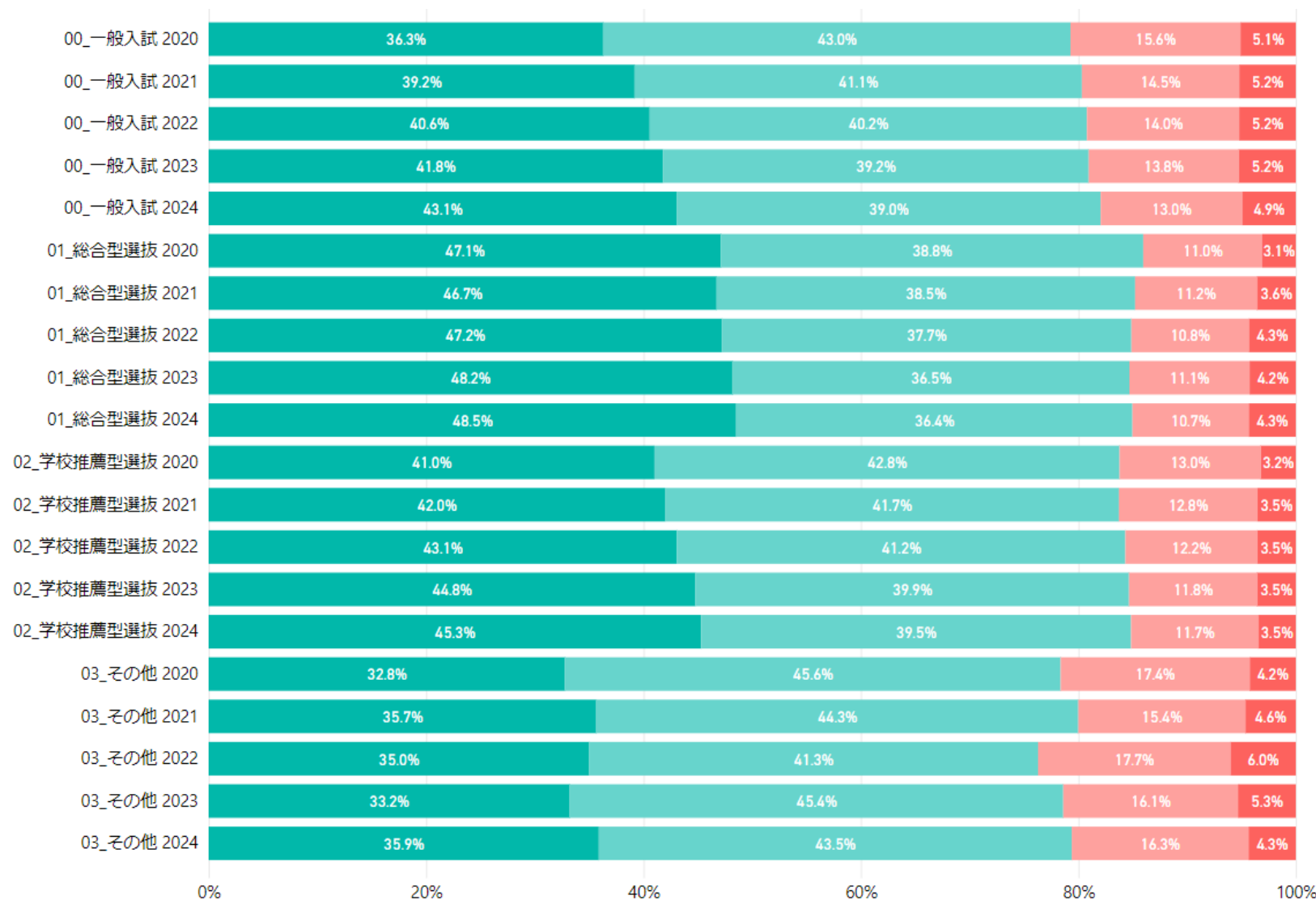
「楽単志向」の拡大傾向に入試方式による差はなし

- 「楽単志向」の学生の比率や増加の幅に入試方式ごとの大きな差は確認できない



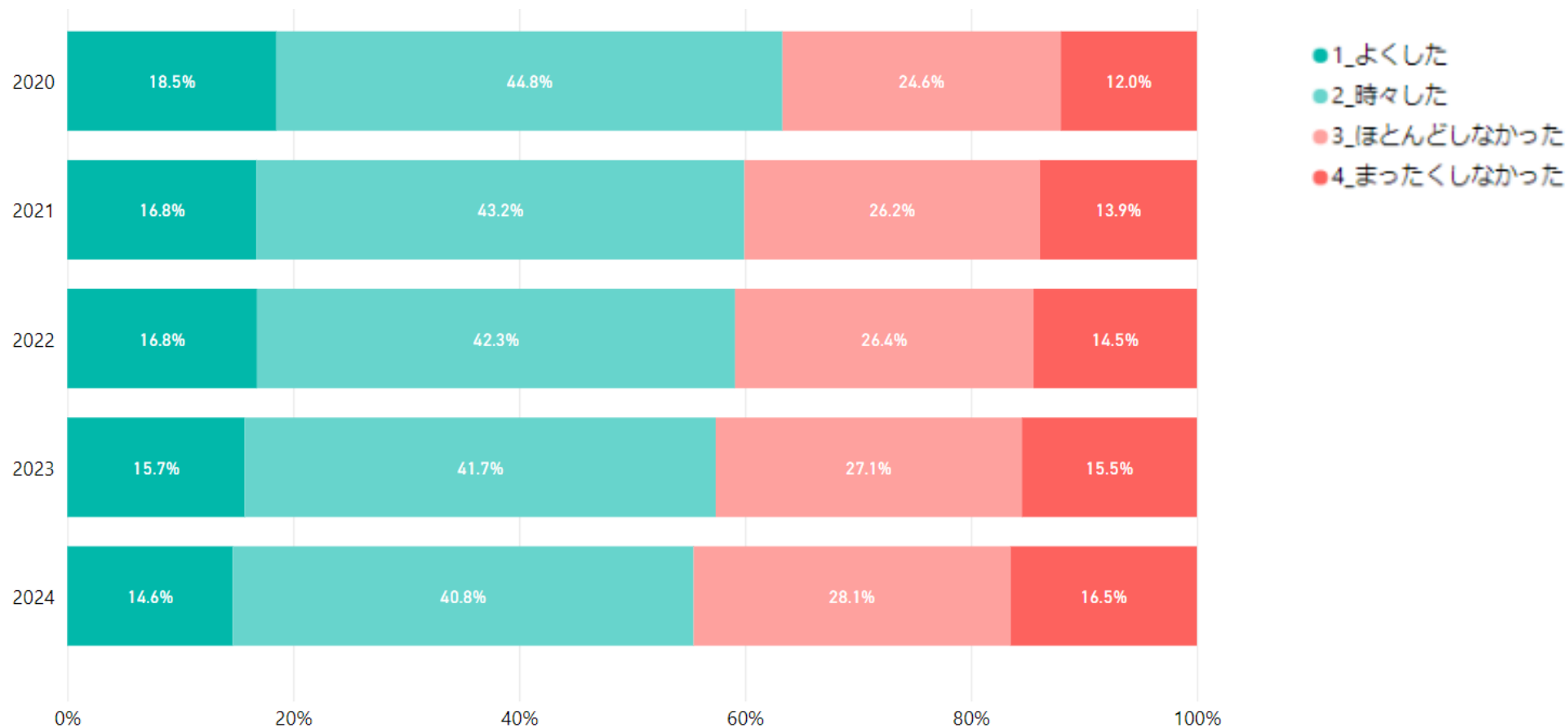
グループワークやディスカッションに積極的に参加

- グループワークやディスカッションへの積極的な参加を「よくした」と回答した学生の比率が年々上昇
- 一方で「まったくしなかった」と回答した学生も一定割合で存在し続ける

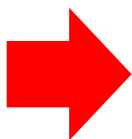


どの入試方式でも「よくした」が増加

- どの入試方式でも肯定的な回答（よくした＋時々した）が8割を超えており、高校の授業等でのグループワーク等の導入拡大がうかがえる
- 「よくした」の回答率がもっとも高いのは総合型選抜であり、増加傾向も継続している
- 「よくした」の増加率がもっとも高いのは一般入試であり、高校の教科学習の中でもグループワークやディスカッションが取り入れられている様子がうかがえる

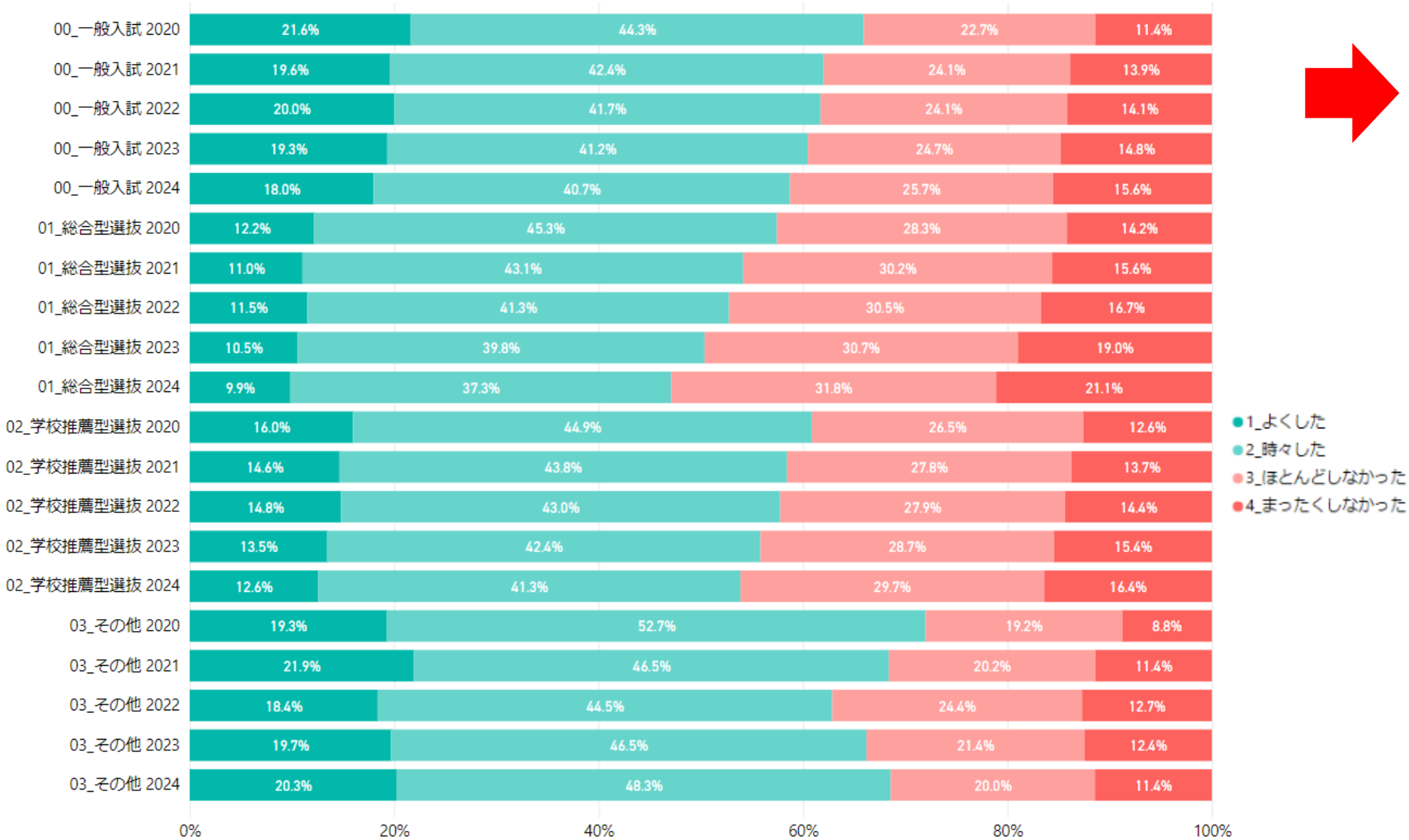


授業の予復習をしない学生の割合が増加

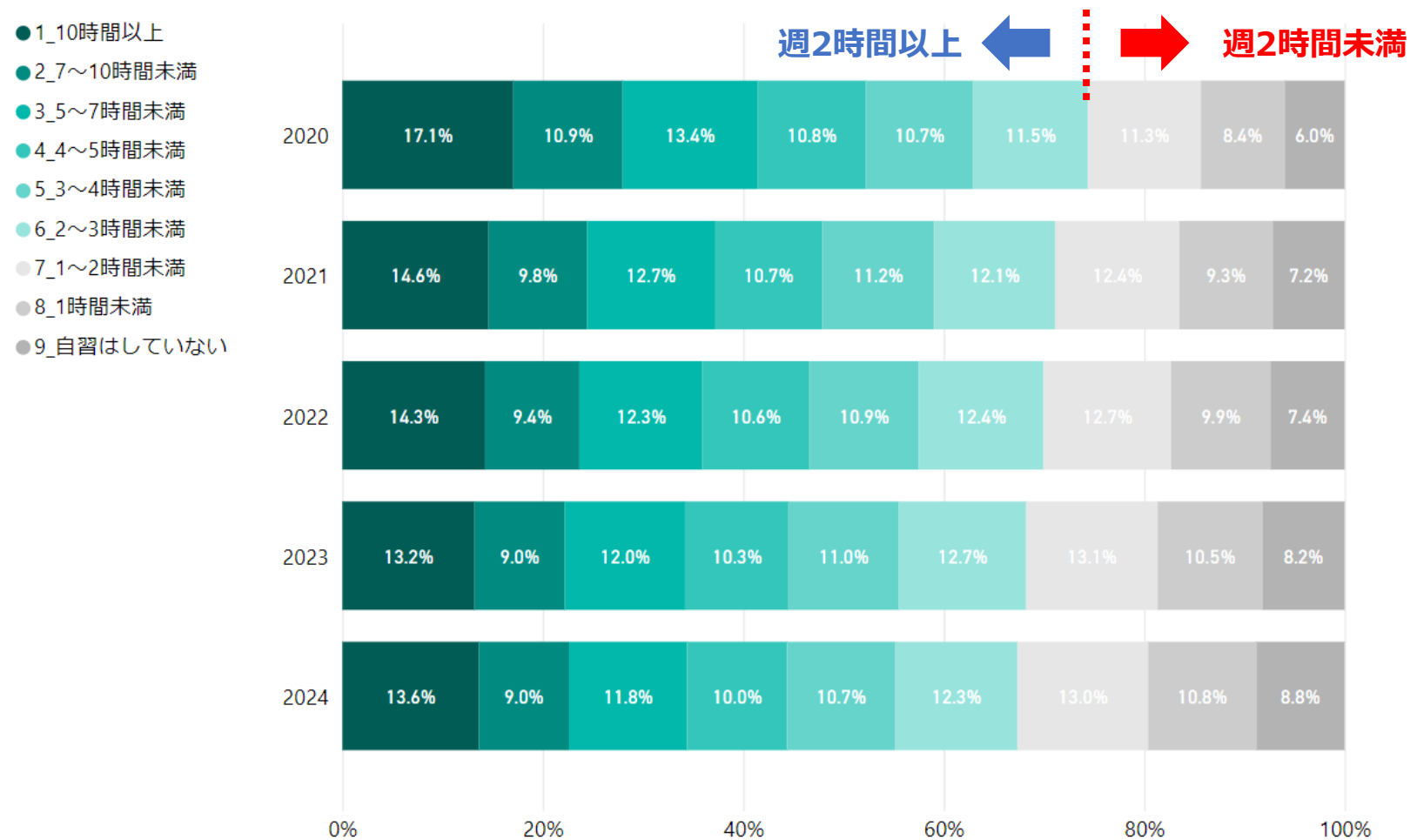


- 過半数の学生は授業の予復習を「した（「よくした」+「時々した」）」と回答
- 一方で「しなかった（「ほとんどしなかった」+「まったくしなかった」）」と回答した学生の比率は年々増加し、2024年度では4割を超えている
- 2020年度は「よくした」の比率が「まったくしなかった」の比率を上回っていたが、2024年度では逆転し、「まったくしなかった」の比率のほうが高くなっている

学びへの取り組みの変化② 「必要な予習や復習はしたうえで授業に臨む」（入試方式別）



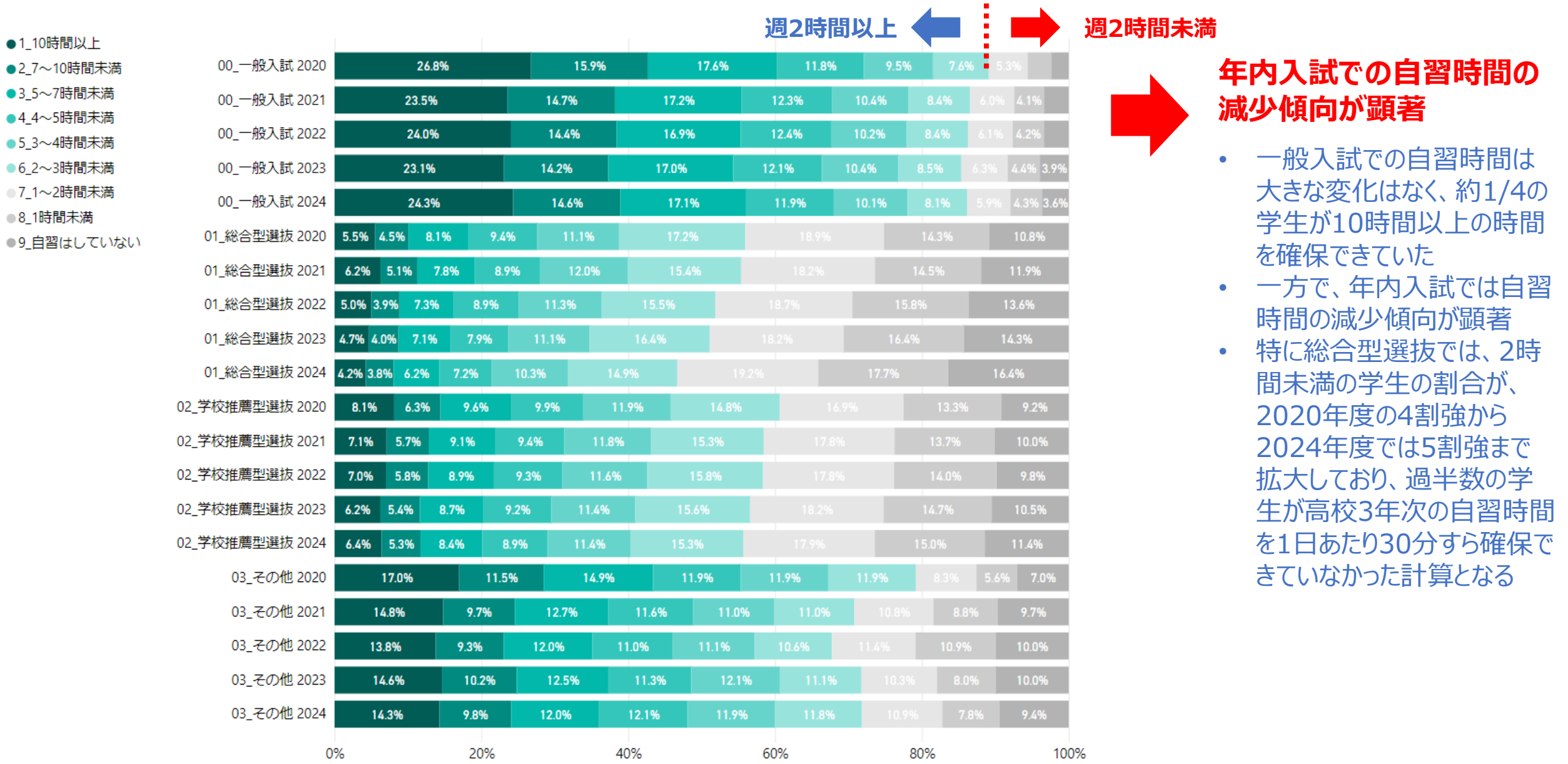
- どの入試方式でも「しなかった」が増加
- 授業の予復習を「した（「よくした」+「時々した」）」と回答した比率がもっとも高いのは一般入試であり、学校推薦型、総合型の順でそれに続く傾向に変化はない
 - 一方で、どの入試方式でも「しなかった（「ほとんどしなかった」+「まったくしなかった」）」の割合が増加傾向
 - 「しなかった」の増加率がもっとも高いのは総合型であり、2024年度では「しなかった」学生が過半数となる。一般入試でも4割強が「しなかった」と回答



自習時間が減少傾向

- 高校3年次の週あたりの自習時間は年々減少傾向
- 週あたりの自習時間が2時間未満の学生は、2020年度では2割台だったのに対し、2024年度では3割を超えている

高校3年次の週あたり自習時間の変化（入試方式別）



新入生の変化への対応の視点

アイスcreamを……

買う	50人
買わない	50人

平日

買う	10人
買わない	35人

休日

買う	40人
買わない	15人

雨

買う	2人
買わない	30人

晴れ

買う	8人
買わない	5人

雨

買う	10人
買わない	10人

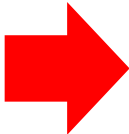
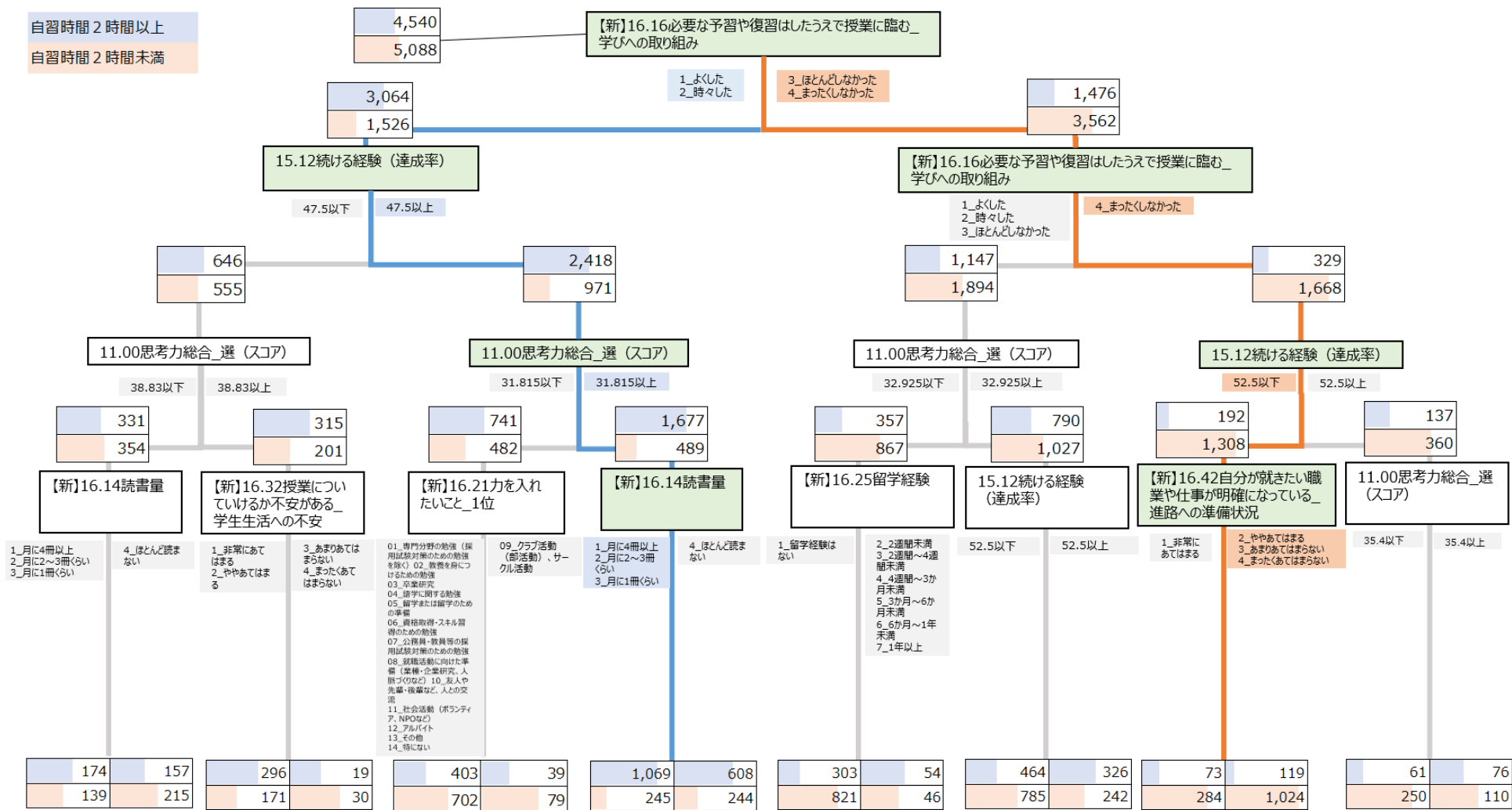
晴れ

買う	30人
買わない	5人

性別
年齢
職業
……

総合型選抜入試で「週に2時間以上の自習時間を確保できていた学生」には、どのような特徴があるのか

データ	24年度GPS-Academic新入生版速報データにおいて、入試区分「総合型選抜入試」の学生13,755名 ※入試区分は弊社で処理をして抽出
目的変数	「週当たりの自習時間」に対して、「6_2~3時間未満」以上の自習時間と回答していたら1、 「7_1~2時間未満」以下の自習時間と回答していたら0とした。
説明変数	GPS-Academicで計測した154項目 ※順序尺度でない変数はダミー化して投入しています ※大学の魅力1位、学問の魅力1位、2位以下の項目など適宜判断して変数を一部除外しています

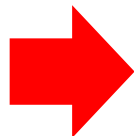


授業の予復習に加えて、「続ける経験」をしていることが重要

- 思考力が高いこと、読書量を確保していること、就きたい職業が非常に明確になっていること等も影響

GPS-Academicで「続ける経験」を問う質問

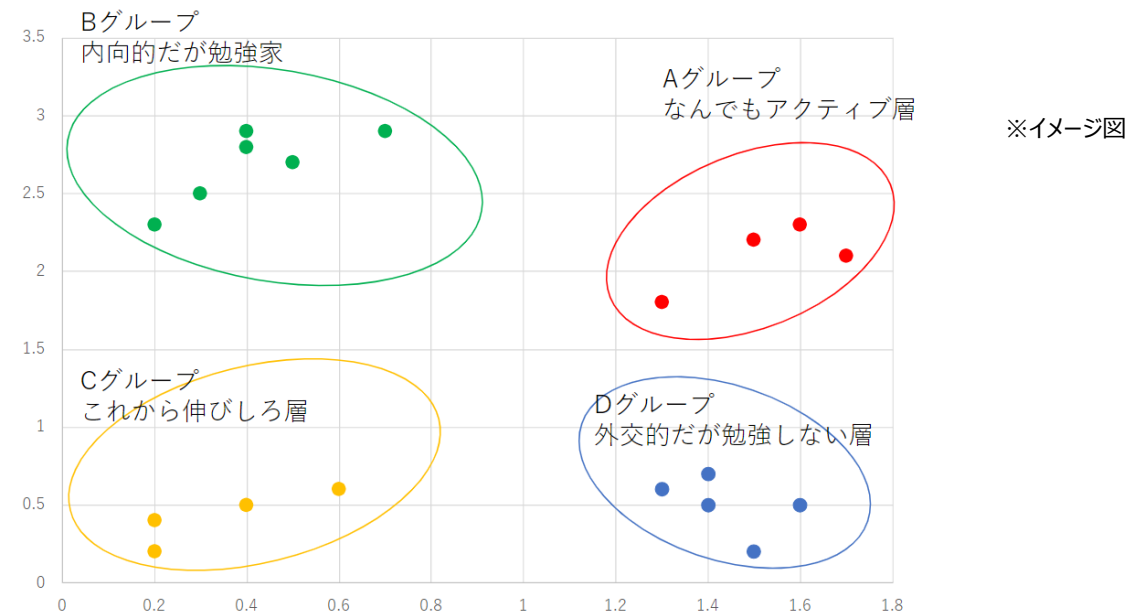
- 勉強や進路などの目標は忘れずに意識した
- 勉強の習慣をつける工夫をした
- 苦手なことでも続けられるように工夫した
- 勉強がうまくいかなかったときは、いろいろなやり方を試した
- 自分の目標は達成するまであきらめずやり遂げた



目標達成に向けて、工夫をしながら継続的に勉強できる、「自己管理能力」を養う経験

- 高校の新課程で重視される「**自己調整学習**」によって、さらに涵養される可能性

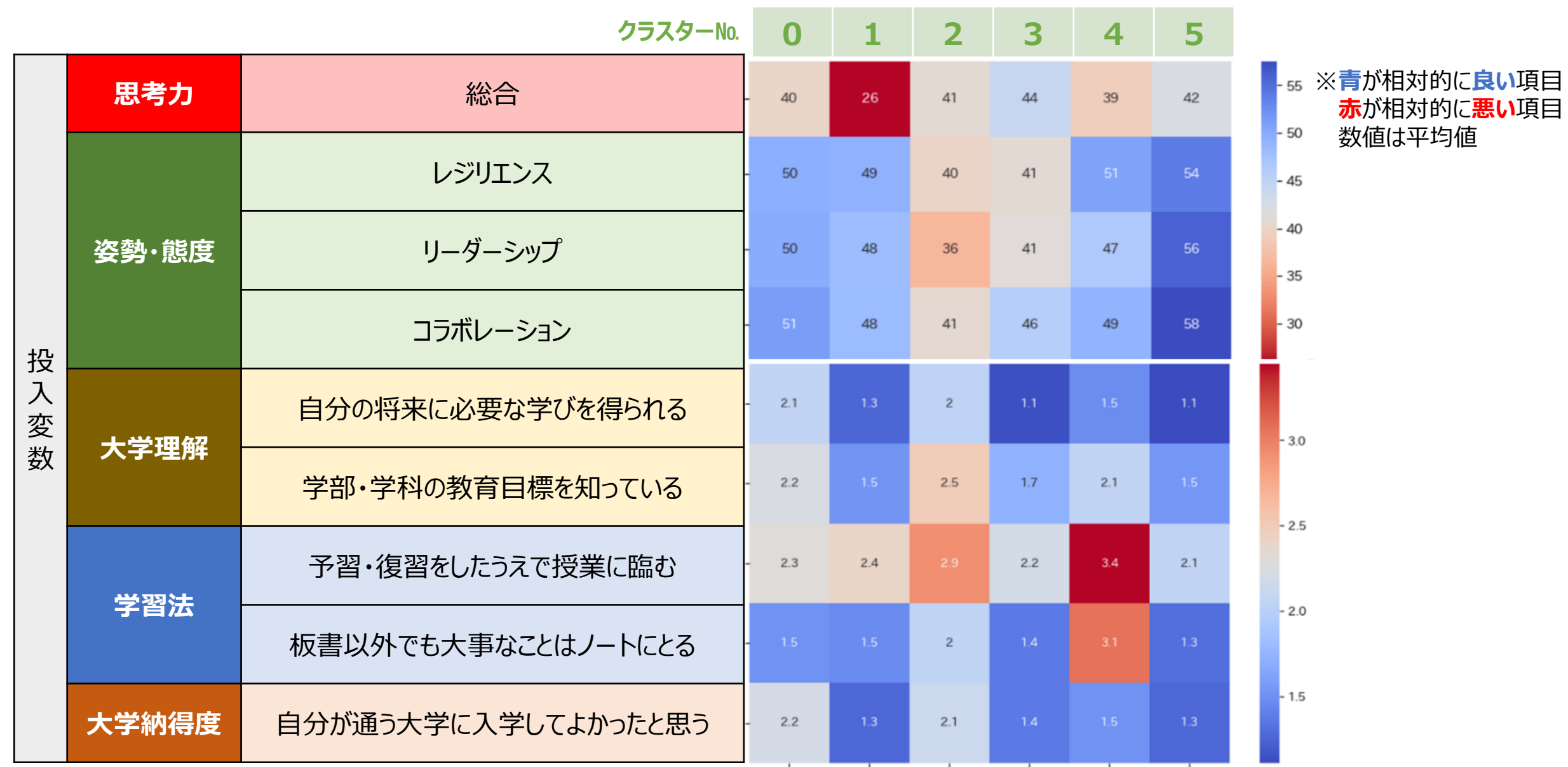
データから互いに類似した性質のものを集め、クラスター（集団）を作り対象を分類する機械学習手法



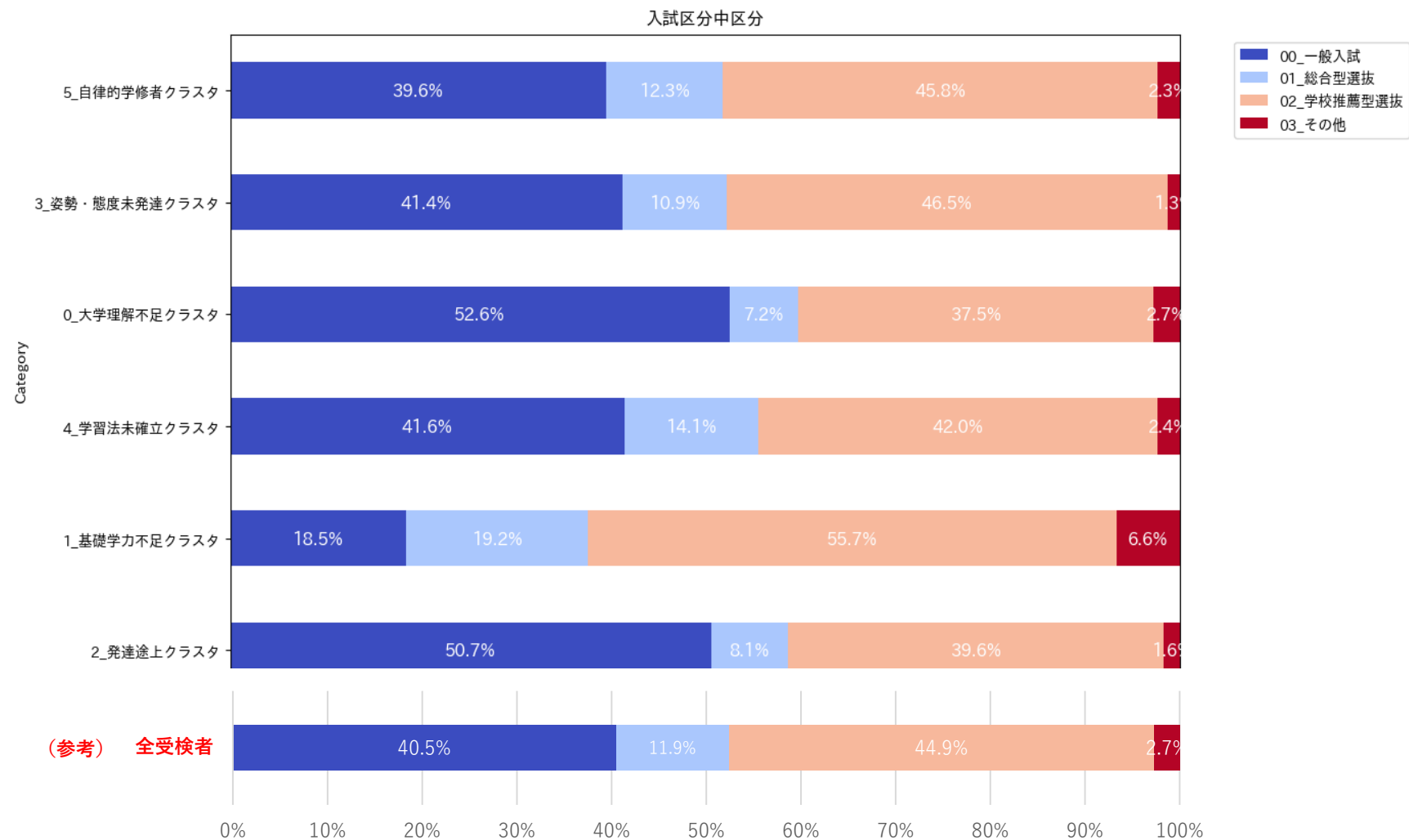
★検証したいこと★

「学生の特徴」でグループ化してデータ検証することで、「学生対応の視点」が明確になるのではないか

データ	24年度GPS-Academic新入生版速報データ…115,502名 ※能力、意識調査の両方回答者のみ抽出
投入変数	思考力総合_選（スコア）、姿勢態度レジリエンス（スコア）、姿勢態度リーダーシップ（スコア）、姿勢態度コラボレーション（スコア）、16.08あなたが通う大学で、自分の将来に必要な学びを得ることができると思う_目標・カリキュラム・授業内容の理解、16.09所属する学部・学科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）を知っている_目標・カリキュラム・授業内容の理解、16.16必要な予習や復習はしたうえで授業に臨む_学びへの取り組み、16.18板書や投影資料以外でも大事なことはノートにとる_学びへの取り組み、16.29大学納得度
分析手法	K-means++ ※エルボー法とシルエット法によりグループ数を決定

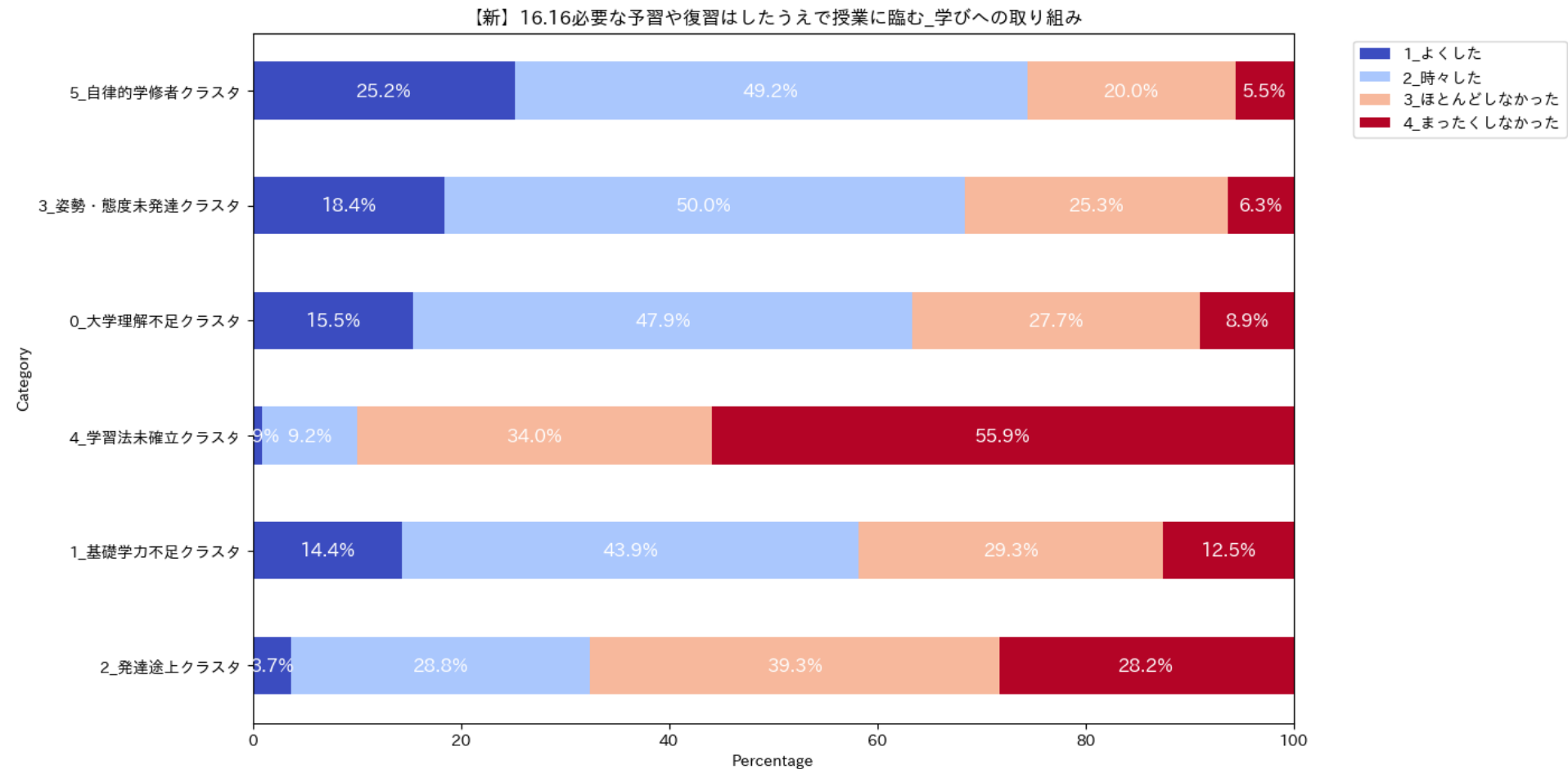


クラスタ No.	クラスタ名称	n数	特徴
5	自律的学修者	24,311	• どの変数も相対的に良く、特に「コラボレーション」「リーダーシップ」や「将来必要な学びを得られると思う」のスコアが良い • 入学時点から自律的に学修を進めていくことが期待できる学生群
3	姿勢・態度未発達	25,029	• 「将来必要な学びを得られると思う」や「大学納得度」、「大事なことはノートにとる」などのスコアが相対的に良く、「思考力」も高いが、「レジリエンス」や「リーダーシップ」が相対的に低い • 学んでいる成果を、問題解決のための姿勢・態度を身に付けることにもつなげてあげたい学生群
0	大学理解不足	19,116	• 「コラボレーション」や「大事なことはノートにとる」のスコアはよいが、「将来必要な学びを得られると思う」「教育目標を知っている」や「大学納得度」のスコアが相対的に低い • 大学への理解を深めることで、日々の学修の意義を明確にしてあげたい学生群
4	学習法未確立	14,377	• 「将来必要な学びを得られると思う」や「大学納得度」が相対的に高いが、「予復習をして授業に臨む」や「大事なことはノートにとる」が低く、「思考力」も相対的に低い • 大学生としての学習法を確立させることで、授業の成果を最大化してあげたい学生群
1	基礎学力不足	18,048	• 「将来必要な学びを得られると思う」や「大学納得度」が高く、「大事なことはノートにとる」も相対的に高いが、「思考力」が低い • 基礎的な学力を高めさせることで、せっかくの大学への期待を継続させてあげたい学生群
2	発達途上	14,621	• どの変数も相対的に低く、特に「予復習をして授業に臨む」や「リーダーシップ」、「教育目標を知っている」のスコアが低い • まずは何に困っているかなどを聞き出すことで、成長のきっかけを見つけてあげたい学生群



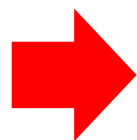
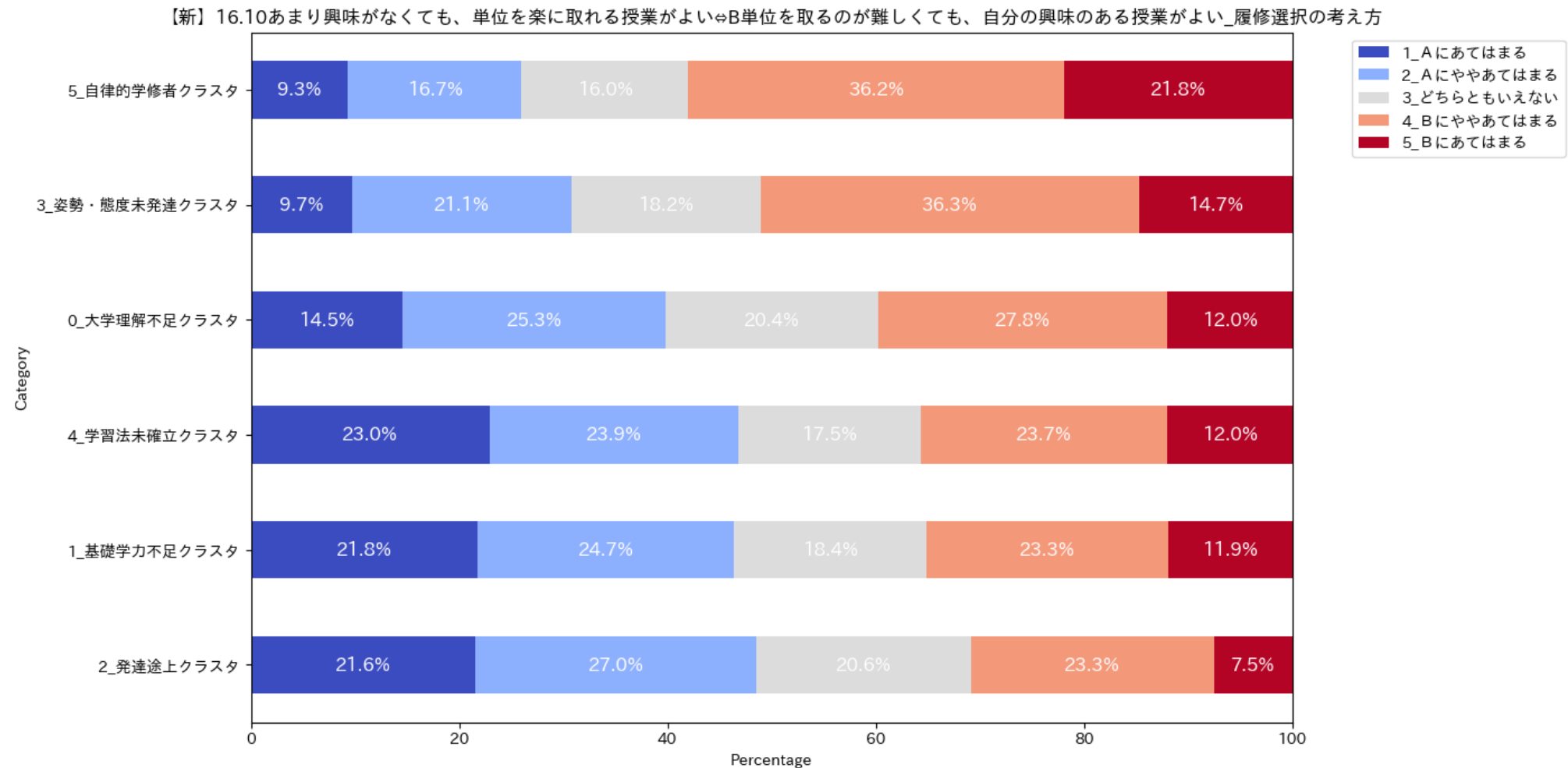
どの入試方式でも各クラスがほぼ同比率で存在

- 全受検者での入試方式ごとの比率と比較しても、特定の入試方式に対するクラスターの極端な偏りはない
- 「大学理解不足クラス」は一般入試に、「基礎学力不足クラス」は学校推薦型に多い



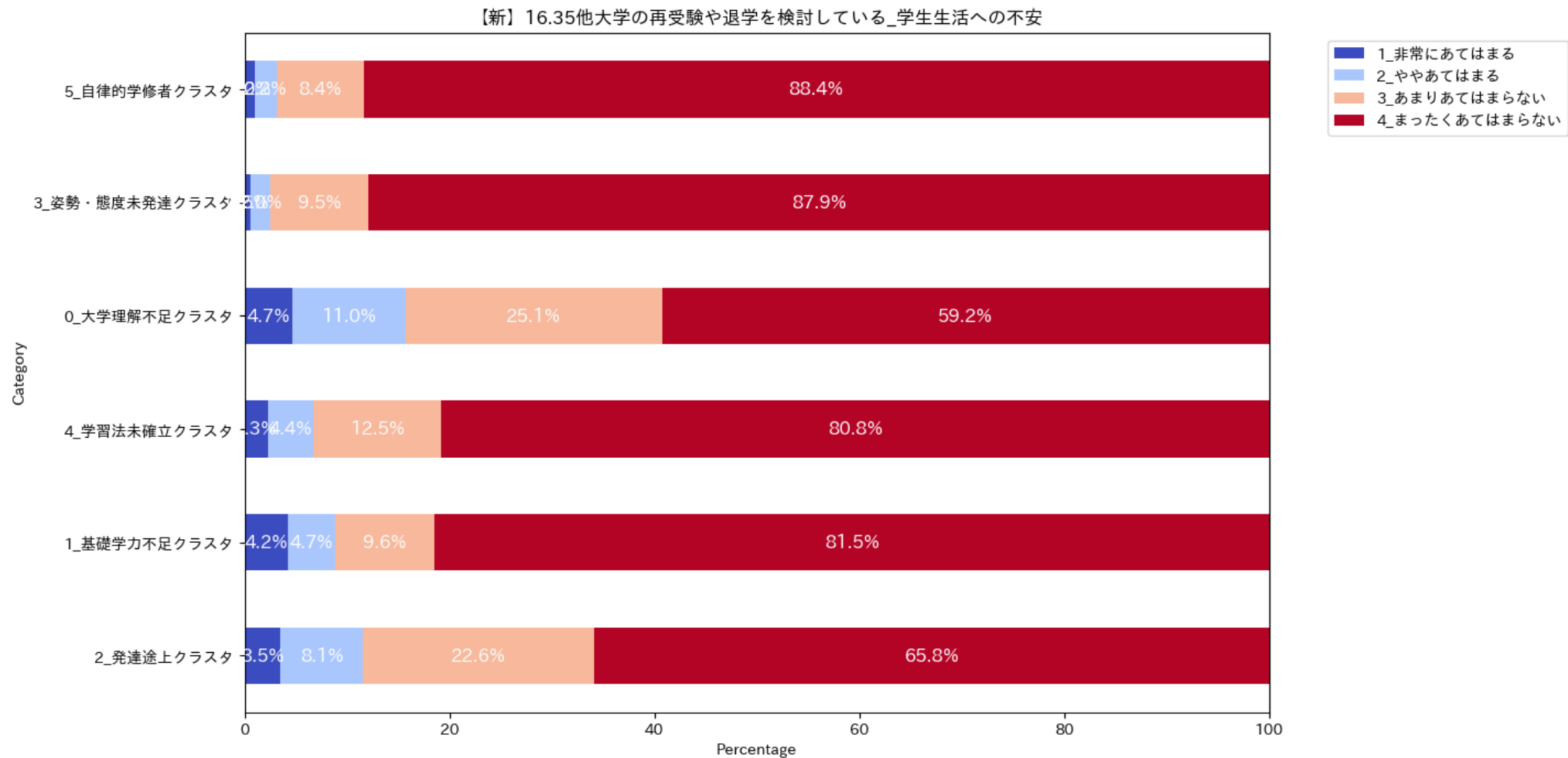
「学習法未確立」では過半数が「まったくしなかった」

- 「学習法未確立」では予復習を「しなかった（「ほとんどしなかった」+「まったくしなかった」）」学生が9割弱で、「まったくしなかった」だけでも過半数を超える→**学習習慣作りの必要性**
- 「基礎学力不足」では予復習を「した（「よくした」+「時々した」）」が6割弱だが、「思考力」は低い→**学習習慣だけでなく、具体的な学習内容まで確認する必要性**



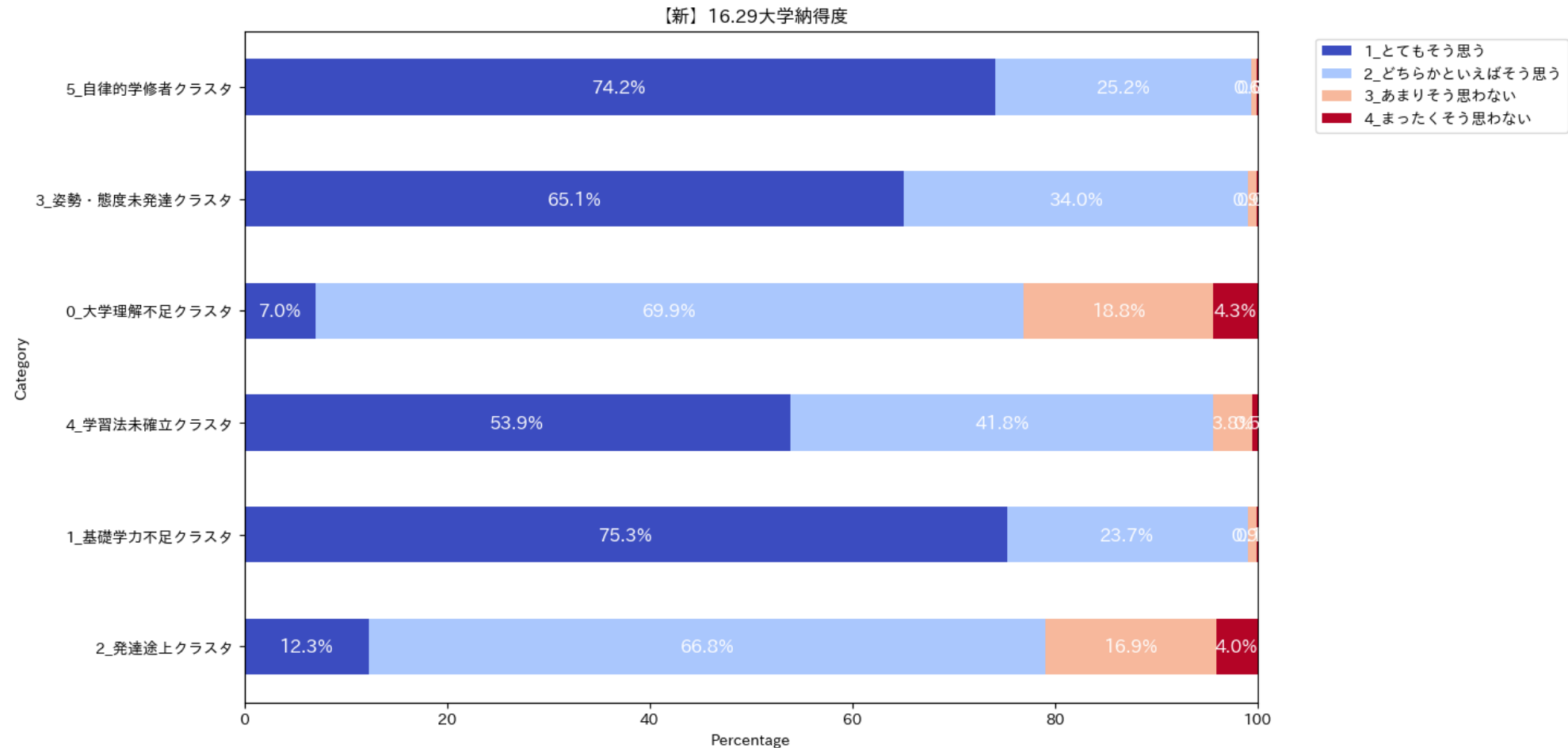
学修面での不安が「楽単志向」につながっている可能性

- 「自律的学修者」と「姿勢・態度未発達」では、「楽単志向」は低い
- 「楽単志向」の比率が高いのは「学習法未確立」「基礎学力不足」「発達途上」→基礎学力の定着・強化や学習法の指導によって、積極的な履修選択を促せる可能性



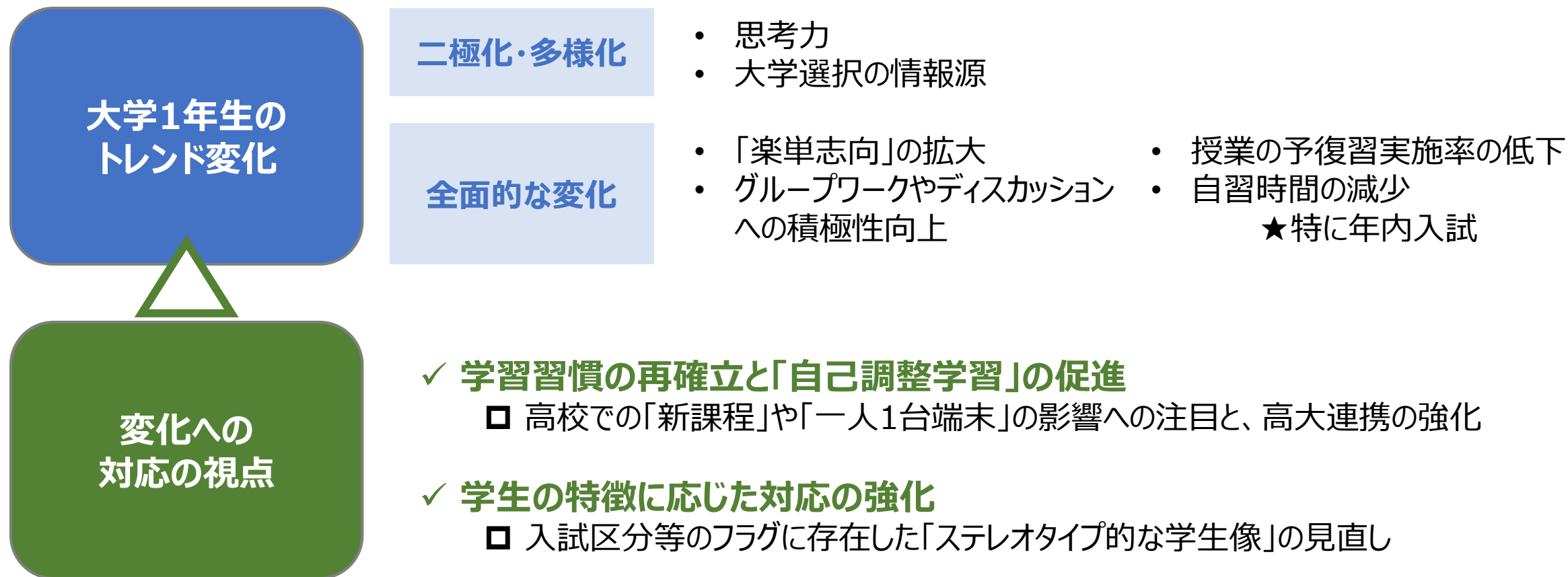
退学を検討している比率が高いのは「大学理解不足」と「発達途上」

- 退学を検討している比率がもっとも高いのは「大学理解不足」だが、このクラスターは大学理解以外はスコアが比較的安定→大学の教育目標や学び方の特徴を理解させることで、改善される可能性
- 次いで高いのは「発達途上」→何に困っているかを面談等で確認することから開始する必要性



大学納得度がもっとも高いのは「基礎学力不足」

- 大学納得度の「とてもそう思う」の比率がもっとも高いのは「基礎学力不足」→せっかく大学生活に前向きであるが、基礎学力の定着・強化がなされないと、授業についていけなくなる可能性
- 次いで高いのは「自律的学修者」→納得した時期や理由をインタビューすることで、自学の強みや他の学生への指導ポイントのヒントが得られる可能性



**➡ 「学内データ」「客観データ」「主観データ」で学生を多面的に可視化・把握し
面談等で「個」に応じた対応・指導を行うことの重要性 = 「学修者本位の教育」の実践**

まなぶ と はたらく を つなぐ 研究所

✓ 所在地

- 〒163-0432 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング32階
株式会社ベネッセ i-キャリア内

✓ TEL

- 03-5320-1299（土曜・日曜・祝日・年末年始を除く9:30-17:30）

✓ Mail

- cag000144@benesse-i-career.co.jp

✓ ホームページ

- <https://www.benesse-i-career.co.jp/labo.html>（公開レポートなどもこちら）